

2年越しの取り組みが結実

再生農地で「山椒」初収穫



地元有志と作業する桑原会長(中央)と森田委員(右)

「販路確保」地域活性化の起爆剤に

太子町農委会
遊休地約30㍎

太子町で13日、遊休農地を再生した約30㍎で栽培されている山椒(サンショウ)が初収穫された。太子町農業委員会(桑原秀行会長)が、鳥獣被害が少なく収益の見込める作物を地域に提案しようと、森田孝一委員を中心に2年前から取り組んでいた。

当日は桑原会長と森田委員、地元有志のほか、龍野普及センター職員、山椒の出荷先になるフンセン(株)(本社・たつの市)社員ら10人が集まり、140本の木から約30㍎の実を収穫した。同社を紹介した元・たつの市農業委員の岡村敏朗さんも駆けつけた。

同町農業委員会は、遊休農地ゼロを目標に掲げ、こ

れまでヒマワリなどの景観作物の栽培、ヘアリーブッチ農法など農地の有効活用と省力管理を目指して、いろいろな試みを行ってきた。

山椒栽培は、苗木がシカの食害を受け、剪定・整枝も簡単ではないが、成長すると手入れが比較的楽になるといふ。

「販路が確保できたので、手伝ってくれる地域の方に買金を支払い、売り上げを還元できる。新たな特産品として、地域活性化の起爆剤にもなりうるのでは」と森田委員は話す。

桑原会長は「森田委員の努力が実を結び、地域にも貢献できて大変うれしい。山椒栽培は遊休農地の解消だけでなく町農業の活性化につながる新たな試み。今後の成果に期待している」と語った。

(太子町農業委員会)